

令和5年度 第1回 高知県立図書館協議会・高知市立市民図書館協議会 議事録

○日時

令和5年7月20日(木)10:00~12:00

○場所

オーテピア4階 ホール

○出席者

別紙出席者名簿のとおり

○開催内容

1 開会

県立図書館長あいさつ

委員紹介

会長・副会長の選出・・・会長:加藤委員 副会長:篠森委員

議事録署名人の選出・・・神野委員

2 議事

(1)第2期オーテピア高知図書館サービス計画の取組状況について

(2)その他

3 閉会

市民図書館長あいさつ

○議事録(※議事内容:事務局説明、意見交換)

議事(1)・(2)

(委員)

3点ほどお話をさせていただきたい。

まず1点目は、学校とオーテピアの関係について。オーテピアへの図書館見学が、非常に重要な機能を果たしているということ。前任の小学校では、家に書棚がない、活字の本が置かれてないという家庭がかなり存在していた。この図書館見学があることによって、本や読書に関心のない家庭の子どもも、図書館の存在を知り、どうやって本を借りたらよいかということが分かる。職員の方は、子どもたちがやって来て大変だと思うが、非常に重要な取組であると思っている。

2点目は、オーテピアと分館・分室の関係について。一宮ふれあいセンターにも分室があり、駐車場がある関係で、返却の冊数が多い。オーテピアで借りた本、他の分館・分室で借りた本も全部返却することができて、利用者の方から非常に好評を得ている。それから、以前は困りごとがあっても本館に聞くのは敷居が高かったが、ここ最近、質問というか、いろいろな困りごとの相談がしやすくなったということを分室の職員を通じて聞いている。また、一宮分室の職員が業務協議研修会で、どのような取組をしているかという発表をさせていただいたことがあり、そのことが職員のモチベーションを高めたと感じている。発表した後で、他の分館・分室から、あれはどういうふうに行っていたのかという質問を受けたり、あれは良かったよという声をかけていただき、それが励みになって、なお一層、いろいろな工夫をして非常に意欲的になっているということを感じている。

3点目は、居場所としての分館・分室、それから、オーテピアについて。一宮ふれあいセンターにも、お母さんが、保育園児ぐらいの子どもの手を引いたり、乳母車を押したりして来ている。オーテピアまでは行けないが、地域の分館・分室は利用しやすいということがあって、絵本や紙芝居などを借りていかれる。また、一宮分室の中で、それらを読み聞かせている姿を見るが、地域に根差すという意味で、分館・分室等の存在は非常に大きいと思う。先ほどの説明の中に不登校のことが出ていたけれども、私は、以前、心の教育センターにいて、その前は高知市教育研究所の教育相談班で長年、不登校や日本語が不得意な外国人の方と接してきた。不登校の子どもたちにとって、地域に落ち着ける居場所がある、安心して行くことができる、そういう存在があるというのは非常に大きいと思っている。

#### (事務局)

現場に即したご意見で、はっとさせられることがあった。家庭における格差の実情をお聞きし、情報弱者を作らないために図書館がやらなければならないこと、情報リテラシーの向上支援や図書館見学が重要であると再認識した。分館・分室も含めて、精力的に取り組んでいきたいと思う。

一宮分室の職員には、業務協議研修会での発表、本当にありがとうございました。分館・分室の取組発表は昨年から取り組んでいるが、オーテピアの市民図書館本館の職員と分館・分室の職員がもっと身近に、気軽に相談ができる体制づくりをとの思いで始めた。直接このようなお話をお聞きすることができ、こちらのモチベーションも上がった。この場を借りてお礼を申し上げたい。

#### (委員)

先ほどのお話の中で、家に書棚がないなど、家庭の事情等がいろいろとあるとのことだった。そのことと少し関連するが、夏休みになって給食がなくなり、栄養が足りずに困っている子がいるという話がある。それを「知」の方で考えると、学校に行けなくなって家でしか勉強できなくなるということ。食事と同じように、やはり「知」に飢える子がいると思うので、そういう場合に図書館の意義が出てくると思う。分室も勉強に使えるし、貸出も教えていただければできると思う。

今、電気代が厳しく、節電のために電気もあまりつけておらず、家では暑いという子もいる。お年寄りにしても、電気代がもったいないからとか、今はいろいろと生活が厳しく、図書館に行ったら涼めるということも感じる。そういう理由で図書館に行くという話も聞いたことがあるので、そういう意味でも、図書館の意義があると思う。

少し前になるが、テレビで大人の学び直しというのが話題だと聞いた。コロナで家にいる時間が長かったことで、副業や資格、また、自分の夢に向かって少し勉強し直してみようという大人が増えているという。都会には勉強カフェというものがあるらしく、早朝に勉強してから仕事に行くという方もいるそうだ。図書館は、早い時間は無理かと思うが、何か特別に利用できる部屋などがあったらと思う。フレックスタイムで午後から仕事に行ける人は、午前中に図書館で勉強できると思う。図書館には、そういった学び直しの際に意義のある仕事関係のブックリストもたくさんあり、良いと思う。

ここまでは委員としての発言だが、一般利用者としてもお話ししたい。先日、上京する前の待ち時間に2時間半ぐらいオーテピアに滞在した。その時、雨が降っており、1階の傘立てに傘を置いたが、各階にも傘立てがあった。1階に傘を置くのを忘れた人のためだろうかと疑問に思った。

ちょうど試験期間中でテーブル席がいっぱいだったのと、母が高齢なので、感染予防も含めて長椅子で過

ごした。本の好きそうな人は、長椅子に座って次々と本を読んでいた。私も2時間ほどいろいろな本を、次はこれを借りよう、あれを借りようと思っていたが、長椅子で本を読んでいる方たちも、きっと本が好きなんだなと思った。あの長椅子は良い。

それから、書棚にその棚の図書に関連したポスターが貼ってあるのも、とても良いと思った。これは図書館から依頼をしているのかな、それとも、図書館がポスターに合わせて本を持って来るのかなと思った。副業や求人、資格についてのポスターが貼ってあったのが良いと思った。

それから、1階の休憩コーナーに行って、ご飯やおやつを食べようとしたところ、電動車椅子ではなくシニアカーに乗った方が入って来たが、それは良いのか。

(事務局)

大丈夫です。

(委員)

そうですね。良いですね。そこで、その方がペットボトルで水を汲んで飲んでいました。車椅子はOKだと思っていたけど、シニアカーは聞いてなかったので、注意できれば良いのかなと。1階の休憩コーナーのところは良いですね。周囲に気をつけていただいたら大丈夫だと思う。

(事務局)

生活支援等の話をしていただいた。オーテピアを作る時にどういったサービスを新しい図書館で実施していくかという整備基本計画からスタートさせたが、その際に、先ほどのお話のように、セーフティーネットの機能を図書館としてしっかり持たせるようにしようということがあった。高知県全体が生活保護率が高いということで、ご家庭に十分な学習環境がないこともある。そうした子どもたちも、オーテピアに来れば、好きな本が読め、勉強して知識を増やそうとすれば図書館でどんどん知識を蓄積できていく。そういったところを館全体として支援していこうということで、強い思いを持って、サービス計画に盛り込んだということがある。

また、大人の学び直しという点では、この3年間、コロナ禍の中で転職をされる方がずいぶん増えている。そうした時に転職先を探すのももちろん大事だが、資格の取得も必要となる。そういった部分でも、広い意味でのビジネス支援という形で、関連書籍を積極的に購入をしてご活用いただけるようにしている。

募集等のポスターに関しては、日頃からアウトリーチというか、図書館側から営業活動をかけて連携先をかなり増やしている。それもあって、相手先からポスターの掲示等の依頼が来るようになった。訪問により、関係機関が増えてきているので、そうした取組も続けていきたい。

(事務局)

子どもの居場所ということ言うと、潮江分館の近くに子ども食堂ができたという新聞を見て、そこへ潮江分館の職員が読み聞かせに行くようになった。とても喜んでもらってるということだ。そういう意味では、新しい連携を始めると、良い相乗効果があると思っている。

(委員)

今までお話を聞いていて、オーテピアの基本理念である「高知を生きる人たちに力と喜びをもたらす図書館」、そして基本方針の5つ全てについて本当に努力されており、私はこの会に来るたびに、職員は残業しているのではないかと、勤務体制はどのようにしているんだろうということが一番感じていた。毎回来るたびに課題を解決しており、次はこういう方向へ進めているという答えがこの会に来るたびに言われていて、それをするためには職員の方の素晴らしい働きがあるのではないかと考えていたが、どのようにやっているのかということに不思議に思っていた。これまでの取組に対して、こんな素晴らしい図書館が高知県にあるということだけでも、私たち、また、個人としても誇りに思っている。まず1番目に、取組についての評価を申し上げた。

2番目に、図書館の本の冊数や国の動きなどについて聞くと、市町村によって温度差がかなりある。市町村でのサービスが、市町村だけではやりたくてもなかなかできないというところに、細かな手立てとして、オーテピアの職員の方が全ての市町村を訪問して聞き取りを行ったり、個々の図書館の意識を高めていくという方向性を打ち出してくれている点の評価をする。市町村では担当だけがやっているというところが多く、図書館活動について全て知ってやっているというところは多くないので、そういったところの支援を今後ともお願いしたいと思う。

また、教職員の認知度、教職員が図書館を通じてどういった子どもを育むのかという認識があるところと認識がないところの差が出ているかと思う。

全体としては、幼児教育から高校教育までが連動した取組の中で、高知を生きる人たちに力と喜びをもたらす図書館というのが成り立つと思う。ユニバーサル授業などもしているが、正直言って、おそらく各市町村、各学校の図書館で、障害を持った子が本当に楽しめる場として環境を備えているところは少ないと思う。このようにすればどの子も読書を楽しめるようになるというようなところを教えていただき、今後、広めていただければありがたいと思う。

最後に多文化について。来られたの方が困らないように環境整備をされているということだが、逆に今、高知県の子どもたちや大人が多文化に出会っていると思う。修学旅行に小中学生が行っても、高校生が行っても、外国から来た方が多くて、身振り手振りで教えてきましたということを知り、探究の活動が始まっているので、1日は自分で計画して学習してきなさいという修学旅行や遠足が出てきている。そうしたときにそういう方と出会って、少しでも教えられて良かったと思ったり、話しかける勇気を身につけられるようになっていく。外国語でまず基本となるのは英語なので、例えば、ほんの短い物語文が英語に訳されて音声化したものが幾つかあれば、それを各市町村の図書館を通じて借りてきて、各学校で利用できる。そういったことが外国語への興味関心を深めることにつながっていきはしないかと思う。

県立山田高校にはグローバル探究科があるが、県内全ての県立高校の授業が探究型になっているかというところ、まだまだというところがあると思う。そうした中で、今後、山田高校の素晴らしさを伝える機会や、各校への訪問、図書充実といったことも進められたら良いのではないかと考えた。取組については、来るたびに本当に感動している。

(事務局)

最初にお話しいただいた職員の残業という点は、時期によっては時間外勤務が発生するというところもあるが、それについてはモチベーションを高め、意欲を持ってやってもらうというのが多分一番だと思う。私自

身、以前に県立図書館に在籍していて、この4月に7年ぶりに帰って来たが、この7年間、司書もそれぞれ成長している。帰って来たときに、いろいろな取組をやってきて自分たちがこれぐらいできるようになったということと言われたのは非常に嬉しかった。そういう意識を持って自ら能力を高めていく、そういう取組をしているということは非常に印象的なことだった。

市町村の支援については、正直なところ、市町村の取組はそれぞれで、資料費、利用者の年齢構成、職種の割合、産業の構成、そういったものがずいぶん違う。そうしたこともあり、以前から市町村ごとにカルテのようなものを作り、それぞれの市町村の状況に応じて支援をしていこうということで取り組んでいる。図書館に長年勤務されていた方が異動し、戦力が極端に落ちているので手厚く支援をしていかなければいけないとか、そうしたことも含め、個々に応じた支援をやらせていただいている。そこは県立図書館の機能として、今後もますます力を入れてやっていきたいと考えている。

多文化については、技能実習生などで来高されるご本人だけではなく、実習生を雇用している事業主の方であったり、支援者の方、近くで関わる方、それぞれが多文化について理解を深めるための学習をしていくということで、全体を通して多文化サービスを提供するといった視点で今、取組をしつつある。これからますます力を入れてやっていかなければいけないと考えている。

#### (委員)

私は年齢的に紙ベースで読書をしたいというタイプ。でも先日のニュースで、障害のある方が直木賞か芥川賞だったかを受賞されたニュースを拝見したが、その方がインタビューの中で、「読書のバリアフリー」という言葉が使われていた。

私は、このように図書館協議会へ出ているので、そういうものが進んできているようだということを感じているが、あのような形で全国ニュースに出るということは、一般の皆さんにはまだ認知されてないところもあるのかなと思う。

次に、Kono Libraries や KinoDen を始めたという報告があり、画期的だなと嬉しく思って聞いた。世の中には想定してないことが結構あって、耳が聞こえないあるいは目が見えないということは、通常、関わらないとなかなか思いつかないということがあるので、そこをこうして皆さんで進めてくれているのは、同じように障害のある身としては、非常にありがたいことだと思うし、どんどん進めていっていただきたいと思う。

それから、コロナがあって(図書館を)結構利用しづらい時期があったと思うが、この表を見る限り、また持ち直してきて、本来の図書館として機能しているのではないかと去年あたりから感じている。先程の話とも重複するが、そうした新たなことをどんどん始めてくれている。高知市の目標で、誰一人取り残さない、みんなのために、といったことを行政の方々が言われるが、図書館はそうした姿にどんどんなっていっているのかなと感心して聞いていた。

まだまだ不十分なところがあるかもしれないが、私は、少しでも前に進んでくれることが望ましいと思うので、このまま進めていっていただけたらありがたいと思った。

#### (事務局)

読書のバリアフリーという点では、県と市の合築でできたオーテピアは、設計の段階からあらゆる障害の方にできるだけ対応する施設にしていこうと相当議論したが、単独でやっていたら多分ここまでできてい

なかったというところがある。県の方もそうだし、市の方もそうだけれども、とことん議論し、あらゆる障害を想定して、団体の方とも何回も話を重ねて作った施設なので、作って終わりということでは当然ないし、これからソフト面でもどんどん対応していかなければいけないと思っている。その一方で、県全体を見ると、市町村立図書館等では、まだまだそういった面でのバリアがあるというか、不十分な面が多々あると思う。

ここ最近整備された土佐市の「つな一で」、香美市の「かみーる」など、新しい図書館では対面音訳室を設けたり、床をフラットにしたりという配慮がなされているが、全体としては、施設面、ソフト面ともに十分に対応できていないところもある。国の読書バリアフリー法の関係もあり、県の生涯学習課で今年度、読書バリアフリー計画も作っているのだから、そうした中で今後、市町村を含めてどういった方向性を持って読書のバリアフリーに取り組んでいくのかということ、しっかりと議論していきたいと考えている。

また、電子書籍については、オーテピア高知図書館は、紙と電子のハイブリッドということで、今後も進めていきたいと思っている。紙の本を減らしてその分を電子書籍に充てるということではなく、やはり紙の本というのは重要である。ただそうは言っても、紙の本の出版点数というのは、少しずつ減っている状況にある。先程も説明したとおり、雑誌は相当数が廃刊になったり、オール電子になったりということがある。そういった状況も見ながら、電子書籍はオーテピアに直接来館しなくても、郡部の方でも距離に関係なく、24時間ご利用いただけるといった距離的なハンディキャップをなくすという意味でも利用価値はあると思うので、紙と電子の両方を充実させるように、今後取り組んでいきたいと考えている。

(委員)

私も、いつも本当に感動している。資料に新規という項目が毎回たくさんあり、本当にすごいと感心している。

最近の県の発表で、ショックなことがあった。令和4年度の出生数が4,000人を切って、3,897人だった。そんなに子どもの数が少なくなっているのかと。高知県の人口も70万人を切ったのが、少し前だったと思うが、令和4年度の人口は67万人台。人口減が本当に深刻な問題だと思っている。保育園の統廃合もすごく進んでいて、特に災害、地震の津波が心配される南方面の園児や児童がすごく減っている。県市ともに子育てしやすい地域づくり、妊娠期から子育て期まで切れ目のない包括的な支援ということで努力されていると思うが、図書館も協力していただける部署であると思うので、よろしく願いたい。

地域子育て支援センターは、23市町村、1広域連合に47か所あり、オーテピアのすぐ近くのチェントロにもある。おもちゃ、絵本、遊ぶスペースなどがあるが、保育園の中にもおもちゃなどがあるので、地域子育て支援センターなどとの連携や、絵本の貸出しなどを考えてもらえたらと思っている。そういう面で、これから先、子育て支援センターは人手不足になるかもしれないが、優秀な人材が育っているとすごく感じる。これからは機械化、ITやAIでできることを進めていくことが重要になってくる。多様化ということも先ほどから出ているが、在留外国人の方の手を借りなくてはならないということもあり、資料を見ているとそういう面でも、オーテピアが協力、支援してくれていると感じる。

毎年、高知市の保育園が取り組んでいた手づくり遊具展は自由民権記念館で行われていたが、子どもたちの遊び場の確保が難しいということで、今年はオーテピア高知図書館の展示コーナーを一つ借りて、手づくりおもちゃの展示や作り方のチラシなどの配布を行った。それは好評だったけれども、子どもたちの遊び場の確保の問題等があり、今年度からはどこか他の場所へ変えるのではないかと考えている。けれども、好評だったと言ってもらえたのなら、手づくりおもちゃの展示やチラシを置いてもらう連携がオーテピアとで

きればと思う。

子育て応援コーナーもすごく充実してきているとのことで、本当にありがたい。学生ボランティアもすごく頑張っているようで、その学生ボランティアの勉強にもなるので、手づくり遊具展などにも、一緒に訪ねてきてもらえたら嬉しく思う。今、SNSなどにも、ちょっとした廃材や紙コップを使用し、折り紙などですぐ作れるような手づくりのおもちゃがある。知っている保護者の方もずいぶんいらっしゃると思うが、見るのと実際に作るのでは全然違うと思う。また、そういうことに全然興味のない保護者の方もいらっしゃると思うので、学生ボランティアにはそういう活動もしてもらえたらと思う。

それから、先日、東京の方へ親戚に会うためと観光目的で行ってきた。都会では歩かないといけない。毎日、2万歩近く歩いた。帰りの飛行機までに時間はあったが、疲れて歩くのは嫌だ、そのとき思ったのは、どうしよう、そうだ、プラネタリウムだということ。この中に大原町にプラネタリウムがあったことを知ってる方が結構いらっしゃるかもしれない。私は本当にプラネタリウムが大好きで、今でも小学生の時の記憶がずっとある。空を見上げると、今でも思い出す。その時に見た北斗七星、オリオン座、さそり座は、今でもすぐに見つけることができる。今もオーテピアの5階がすごく好きで、孫を時々連れて行くけれども、プラネタリウムはすごい。私が行ったスカイツリーのプラネタリウムに勝るとも劣らないと思う。これはすごいお宝だと思う。今、インバウンドで外国の方もたくさん来ており、また、牧野博士の効果で、観光客もたくさん来ている。暑い時、寒い時、雨の時、足が疲れた時、プラネタリウムではゆったりできて、本当に大きな資源だと思う。牧野植物園、水族館、のいち動物公園など、いろいろなところと連携し、お互いにこんなところがありますよということできるだけ広報してもらえたら、ワクワクときどきするその空間を、たくさんの皆さんに味わってもらえると思う。図書館は本当に楽しいところだな、ワクワクするところだなということ、オーテピアができてますます思うようになった。梶原町の図書館や香美市の「かみーる」、そして、これから新しくできる図書館もあると聞いている。子どもも大人もワクワクときどきし、嬉しい気分になれるところに、もっとなってもらえたらと思うし、連携してそうやってほしい。いつも本当にありがとう。

(事務局)

一番最初にあった人口減少というのは、高知県、高知市は全国に先駆けて厳しい状況にある。その中で、各地にある地域子育て支援センターを含め、いろいろな施設の方にも、オーテピアや市民図書館の分館・分室を利用してほしいと思っている。団体貸出というシステムがあり、カードを作って、オーテピアの本をピックアップして、1か月間借りることができる。そのシステムが知られていないかもしれないので、周知にも力を入れていきたいと思う。

手づくり遊具展は、こちらにとっても本当にありがたい。大物のおもちゃは置けないかもしれないが、オーテピアで展示をすることで、それに合わせた本をたくさん並べると、珍しいおもちゃをめがけてきた人たちが、本を手にとって自分たちで作ってみようという流れにつながっているのも、ぜひ今年もお願いしたい。

学生ボランティアは、春野高校の生徒が手づくりでさわる絵本、布絵本などを作って寄贈してくれている。バリアフリーの連携にもなるので、そういう形での学生とのコラボというのもオーテピアを豊かにしてくれているので、引き継いでいきたいと思う。

最後に、図書館・科学館担当参事という立場で言うと、プラネタリウムのことは、ありがとうございます。複合施設の強みを最大限に生かして、図書館に科学館の展示があったり、科学館に行って、本で調べたいことができれば図書館へ行って調べるといった交流が生まれるような工夫もしながら、オーテピア全体をワクワク

クするものにしていきたいと思っているので、これからもそのことを忘れずに連携していきたい。

(委員)

いつも非常に細やかで幅広い取組をしていただき、ありがとうございます。今月5周年を迎えられるということで、これからも唯一無二の高知県民が誇れる図書館としてより一層発展してほしい。私からは、家庭教育の立場からお話をさせていただきたい。

私は読み聞かせの活動をしているので、コロナ禍前に戻ってきた感じで、いろいろなところで絵本の読み聞かせや保護者の皆さんへの講座なども再開した。児童書もよくお借りする。新刊も非常にたくさん入っているし、予約をするとすぐ確保したという連絡があるので、ありがたい。自分の家の本棚の一部として図書館を活用している。

それと、周りの友人から質問があった。(閲覧席が)コロナ前の椅子の数に戻っているのかということに気になっていた。コロナ禍のときは椅子の数を少し減らしていたと思うけれども、今、土日も利用者が結構多い。座るところがないことがあるので、椅子の数は戻っているのかという質問だった。

今、日曜日もすごい人で、何回か行ったけれども、県外客や県内の人も多く、子どもたちもたくさん来ている感じがする。7月と8月の土曜日は午後8時まで開館していると思うけれども、日曜日にちょっと早い時間から開いてるとありがたいよねという声があった。残業時間のこともあると思うので無理なことは言えないが、例えば、午前8時から開いてると、ちょっとした休憩場所にも使えてありがたいし、県外の人にも、ここ何だろうと思って入ってもらえる。オーテピアを知ってもらうには、夏場だけでもサマータイムにするというのはどうかしらという意見があった。

学習室の利用も(コロナ禍前に)戻っていると思うけれども、この試験期間中も、学生が非常に多く利用していたと思う。私の息子は高校生で、最近、勉強するのにオーテピアを利用しているけれども、今日も学習室がいっぱいだったと言って帰ってくる人が多いので、利用時間が決められているかどうかをお聞きしたい。私は旭町に住んでるので、木村会館が改修されて旭市民図書館が新しくなり、非常に明るくて利用しやすくなっている。オーテピアは遠くないので利用はできるけれども、旭市民図書館にも人がたくさん来ていて、やはり地域の図書館として、皆さん(リニューアルオープンを)待ち望んでいたんだという感じを受けた。息子も旭市民図書館の方に行くと言って、(オーテピアと)両方を利用している。

それと、コロナ禍で学び直しという話もあったけれども、私も個人的に学び直してみたいと思い、保育士の資格を取得して、今、子育て支援員としても活動している。その中で、お母さんたちに本の利用の仕方や、子どもへの読み聞かせの仕方などもアドバイスさせてもらっている。どんな本を買ったら良いか分からないという声が多いので、オーテピアの図書館や地域の図書館を利用して借りてみたら良いよという話をしている。そして、子どもが気に入ったら買って手元に置いておくという利用の仕方をしてみたらどうかと提案させてもらう。けれども、図書館で借りるのは、子どもが破いてしまうから心配とか、舐めてしまうから心配など、傷つけてしまうことをすごく心配されている。

また、オーテピアの図書館は、何歳から行ったら良いか、騒いでしまうから行きにくいといった悩みをお持ちのお母さんたちがいるので、小さな子どものおはなし会があったり、子ども用の厚紙の絵本もたくさんあるので、そういう本を借りてみたらどうかと話している。あと、こどもコーナーの前のところに、赤ちゃんの絵本を置いてあると思うけれども、何がどこにあるか分からないとか、たくさんありすぎて分からないといった声も結構ある。図書館の分類の仕方によって分けられていると思うけれども、0歳からはこんな本

がおすすめ、ファーストブックはこんな本がある、1歳からは生活や乗り物の本など、少し簡単に分けてほしい。また、読み聞かせが初めてのお母さんのためにというコーナーがあったら良いかなと感じている。もちろん、おすすめの本や、今月の本という面出しはしていただいているけれども、若いお母さんや、子育てが初心者のお母さんたちの中には、絵本の選び方でたくさん悩んでいる方が多いという印象がある。

それから、健康・安心・防災情報サービスのお話があった。説明資料の4ページで、いきいき音読倶楽部の動画を公開したとあったけれども、これはコロナ禍前にやられていた、いきいき音読倶楽部の動画版のことか。結構人気があった講座だったと思うけれども、今やられているのかどうか聞きたい。というのは、私自身がコロナ禍後に、高新の文化教室で講座を試してみたら、年配の方のニーズがすごく多くて、キャンセル待ちが出るくらい人が集まった。マスク生活で声が衰えてしまったとか、人と話す機会がなかなかないといった声があり、悩んでいるという感じだった。講座の中で宮沢賢治のいろいろな文学をみんなで読んだり、学校の唱歌や昔の懐かしい唱歌を歌ったり、発声練習をしたりするという講座だったけれども、非常に良かったという声をいただいた。音読はもちろん、人とのコミュニケーションの機会を非常に求めているという印象があったので、この動画も良いと思うし、家で過ごす方のための周知も必要だと思うが、年配の方にも、外へ出る機会や皆さんで話をする機会、居場所があるということはとても大切だと感じている。

#### (事務局)

オーテピアには、以前のように人が戻ってきている。5類移行後は座席を元に戻しているが、100%ではない部分もある。閲覧席に関しては、全ての椅子を元に戻しており、長椅子や一人掛けの椅子、小さなスツールは、車椅子の通りにくさはないかといった様子を見ながら再配置している。足りない時には臨機応変に椅子を出していきいたいと思っている。

学習室の利用については、試験期間中は満席になり、学生が館内をウロウロする状況も見られるが、利用制限や時間制限は特に設けていない。朝早くから並んで、半日あるいは1日を学習室で過ごし、勉強している方もいるが、試験期間中でなければ混雑なく使えることもあるので、そこは様子を見ながらと考えている。

それと、子どもの関係について、読み聞かせが初めてのお母さんがパッと見て分かりやすいように本を集めたコーナーは特にない。本の量が多く、分かりづらいというところはあるかもしれないので、見せ方の工夫ということは必要だと思う。ご意見ありがとうございます。図書館へ行っても騒いでしまうとか、本を破ってしまうということは、一定の想定内なので、図書館をぜひ使ってほしいと、お伝えいただきたい。

いきいき音読倶楽部は、コロナ禍前は対面で行っていたが、急激に人数が少なくなり、代替のものなどを考えた時に、オーテピアで実施するのは一旦休止し、その代わりに皆さんに使ってもらえるような工夫を職員が考えて、YouTubeに載せている。いきいき音読倶楽部をオーテピア主催で再開する話はまだできていないが、中央公民館の「いきいきセカンド☆ライフ」という講座があったので、これとコラボして1回その講座で行ったところ、講座の参加者に大変好評だった。私も受講したが、おっしゃるように声を出すことの爽快感については、「いきいき百歳体操」ではないが、いきいき音読もいけると感じた。今後、公民館などとも連携して広がっていったらという野望は少しある。

#### (事務局)

日曜日の早期開館の話があったが、現実的には難しい。合築前、県立図書館は9時開館、市民図書館は9時半開館だったので、早い方に合わせて9時開館ということで運営している。図書館は開館の準備が相当必

要で、職員が出勤してすぐに開館とはならないので、検討課題にはさせていただくが、現実的には難しい。

あと、いきいき音読倶楽部について、YouTubeでは、画面を見ながら読むという格好なので、今どこを読んでいるのかが分かる。YouTubeの長所としてすごく良いと思う。その一方で、人とのつながりといった面では、実際に顔を合わせてみんなで読んでということが対面でのメリットなので、これもハイブリッドではないけれども、どちらもやっていくということが一番良いと思っている。

(委員)

毎回、委員の皆さんのご意見を聞いて、非常に感動している。

以前からお話させていただいているが、サービス計画は現在第2期で、継続して第3期もあるので、第3期はどこを目指すべきかと日々考えている。そういった意味で、委員の皆さんのご意見が非常に参考になる。そこで、より具体的にお話をさせていただきたい。

二人の委員から話があったが、学生の勉強と居場所については、(合築協議の)当初議論があった。事務局からもご紹介があったが、これは公共図書館的には非常に旗色が悪い話。館内の資料以外は読まないでくださいと掲示をしている図書館がほとんど全部。ほとんど全部というのは、こんなに利用者への対応がゆるい図書館は高知県内でしか見たことがない。私は教育関係なので信じられないが、子どもが勉強しているのに邪魔だから出ていってくれという図書館があることが、私にはなかなか理解できない。だが、そういった議論もあって、居場所がない、また、委員の話にもあった、エアコンをつけられない、部屋がない、個室がない、兄弟が多いなど、いろいろな事情がある子には、みんなオーテピアにおいでと言えたらということを基本構想の時から議論して組み立ててきた。

長椅子が好きというのは、本当にありがたい話。それについての議論の際にも、私は、お年寄りには席を譲ってほしいとまで言ったことがある。要するに、お年寄りは図書館の机がなくても本を読めますよねと、そこまで言った記憶がある。参画されたいいろんな方のそれくらいの思いを込めて、こうした形になっている。また、委員の話で少し考えなければいけないと思ったのは、お年寄りにも居場所や経済的事情などいろいろあり、図書館にいたいと思うことや、いろいろな年齢層の方が、図書館で過ごせる環境をどうやって整備していくか。先ほどの話にもあったけれども、席の数がどうですかというのは、もう既にいっぱいいっぱい、建物をつくる際に、こんな大きな図書館をつくって大丈夫ですかと言われたが、私はすぐに手狭になると思っていたし、今や本当に手狭になってきてしまった。利用に向けては少し考えないといけないと思う一方で、皆さんが言っていたようにオーテピアにいてもらえれば良いとも思っている。

そのことに関連して、事務局や委員の話にもあったが、市民図書館の分館・分室はサイズの的に苦しいと思うが、オーテピアと同じような視点で、セーフティーネットと言っても良いと思うが、子どもも大人も図書館に来れば何とかなる、例えば、命に関わるような暑さでも図書館に来れば涼しいといったことが、実際は非常に重要だと思っている。そういった意味で、オーテピアは当初からそういう設計になっているので、分館・分室においても、長期的視点から、そうしたことが展開できればと思っている。

それから、多文化の話があり、こちらも私は非常に重要視している。第3期のポイントは、表現とか情報発信になるだろう。つまり、情報の拠点ではなく、情報発信の拠点になるだろうというのが、私の中の構想にある。日本にはない先導的なことに、最終的にはたどり着くのではないかとと思っている。その意味で、多文化については、単に外国の方に情報提供するだけではなく、せっかく外国の方がいるので、高知県民みんなが多文化を勉強しましょうという視点が素晴らしいと思った。これは後で申し上げるが、先ほど言われた人口減

とも絡んでくるので、非常に重要な視点だと思っている。

ユニバーサルな図書館という意味で、教育という観点については、先ほども言われた引きこもりなどもあるが、次の課題として発達障害とかADHDの方に対して、図書館を核にして読書を通じた育成というのができないだろうか少し思っている。すぐにはできないと思うが、オーテピアはそういうこともできるポテンシャルを持っている。そういった中で、県の教育委員会、高知市の教育委員会はもとより、市町村の教育委員会とも連携しながら、読書を通じて、そうした障害のある方の育成ができれば素晴らしいと思った。

また、すごく逆転的な発想で、なるほどと気づかされたのは、KinoDen はよく考えたら、図書館に行きづらい方にとって非常に有用なサービスである。皆さんには釈迦に説法だと思うけれども、ユニバーサルなデザインや活動は、一般の人の方が旨み大きいことは以前から言われている。つまり、段差をなくすと車椅子の人は入りやすいが、それ以上に一般の人が楽になる。階段を何段も上がるよりもスロープで、すすっと上がれたらやはり楽。そういった観点からすると、KinoDen の展開をもっと派手にしてもらえたらと思う。Kono Libraries についてはあとでお伺いしたいが、著作権法に関係するので、おそらく一般の方は使えないのではないかと思っている。詳しく教えてもらえたら嬉しい。Kono Libraries を一般の利用者が使うことができればすごく嬉しいので、良いなと思っているが、使えないかもしれないので教えてほしい。

それから、人口減については、皆さんが非常に考えているが、図書館の役割でいうと、優秀な人材を育成すること。これは誤解を受けるかもしれないが、全県民が優秀になるほかに、生き残っていく道はない。ぼうっとしてる人がたくさんいるとやっていけないので、高知県全体が、特段に優秀な方の集合体になるしかない。そうした中で図書館の果たす役割は多い。すでにサービス計画推進委員会では話題になっているが、AI、ロボットなどの力を使うことも検討課題の一つ。また、多文化の話もあり、外国の方の力も得ながら、高知県は何とか人口減を乗り切っていくとイケない。図書館はそういうことを考えるのに非常に良いプラットフォームだと思っているので、そこは重要な観点になる。

委員の皆さんの意見で感動したのは観光資源という考え方。オーテピアで観光の紹介を一生懸命するのではなく、オーテピアそのものが観光資源なのかと思った。もちろん、プラネタリウムは紛うことなく観光資源だと思う。移住を考えている方に、オーテピアは非常に魅力的な施設だと受けとめてもらっている。それが観光資源にもなれば、もっとすばらしいと考えた。

また、非常に建設的な側面もあるが、本音では朝早く開いてほしいと思っている。ご存じだと思うが、香美市の「かみーる」は休憩室だけ早く開く。開架には入れないが、休憩室は外にドアがあるので、そこから入ることができる。「かみーる」の休憩室はナイスな発想だと思っている。もちろん事務局が言われたように、図書館ゲートがある内側はそんな早くに開けられないというのは分かるが、(開架の)外側は開けても良いのではないかと思っている。図書館ゲートがある領域には入れないが、その外側から返却はできると思う。返却が可能になれば、返却する人の用件は終わる。あるいは、一般的な2階のスペース(共同学習スペース)に早朝来てもらって、9時からゲート内の中に入るみたいなことについて、長期的に検討してもらえたら嬉しい。

それから、子育て支援の話があったが、ご家庭向けのアピールということがあっても良いかなと思った。今は、子どもや児童、大人など、非常にマンツーマンディフェンスのようにになっているが、親子パッケージのようなものがあっても良いかと思う。お母さんはこれ、お父さんはこれ、子どもはこれというような貸し方があってもいいかなと思った。いろいろな取組があることは事務局からも伺ったが、例えば、パスファインダーと家族パッケージのようなものがあると、家族で来やすいかなと思った。

(事務局)

まず Kono Libraries については、スマホやタブレットにアプリを入れる必要があるが、オーテピアの共通利用カードを持っていれば、誰でも見ることができる。通常の電子図書館(貸出型電子書籍サービス)については、県内在住又は在勤ということで居住地の制限があり、高知県電子図書館 ID 通知カードを別でお渡ししていた。Kono Libraries については、アプリを入れる必要はあるが、居住地などの制限はないので、共通利用カードをお持ちの方は、その番号を入力してそのまま入っていただく。そして、今年度運用を開始する KinoDen については、電子図書館から入る方法と、マイライブラリーから共通利用カードの番号で入るといった2種類の入り方がある。KinoDen も居住地などの制限はないので、幅広くご利用いただけると思う。

(委員)

ありがとうございます。

それは非常に素晴らしく、車の中で大音量で再生すれば、通勤途中に本を読めるといった意味では、非常に画期的なサービスになるような気がする。釈迦に説法になるが、従前のデージーは著作権の絡みがあり、目が見えない方向けなので、著作権の支払いを求めないといったルールの下でやっていた部分もあった。今回の電子書籍などが誰でも使えるというのはちょっとおいしすぎるが、非常に素晴らしい企画なのでぜひ宣伝していただきたい。

(事務局)

第2期サービス計画がスタートして2年目だが、第3期という話が出てきた。今、委員が言われた情報発信の拠点については、今もそうであると考えているが、オーテピア自身が観光資源であるということについては、外国客船の寄港も(コロナ禍前に)戻ってきて、外国人も含めた観光客の方がたくさん入って来ている。この大きい施設に引き寄せられてということもあると思うし、移住の紹介ツアーなどにもオーテピアを入れてもらって、図書館が観光資源そのものになり得るといったことは、委員の話を聞いていると確信になるので、第3期にはそこも少し入ってくると思う。

また、親子パッケージは、大変面白いので参考にさせていただきたいと思う。

それから、早朝の開館に関しては、今すぐにとということではなく、長期的な検討になろうかと思う。ただ、2階の新聞コーナーについては、そもそも北側に玄関を作っているのだから、そこにだけは早く入れたらいいねといった話が、建物の計画時にあったということをしり聞いている。開館後すぐのコロナ禍を経て、これから次のステージに向かっていく時にそういう考え方をどうするのか。一般の開架ではなく、限定された場所をどうするのか検討課題になるのかなと思った。ありがとうございました。

議事(2)その他

(委員)

現行のサービス計画の進捗管理を行いながら、次の第3期のサービス計画を視野に入れて図書館運営を行っていただきたいと思う。本当にたくさんの有益な意見をいただいた。事務局は今日の意見を参考にして、運営に活かしていただきたい。

12時00分 終了